

(様式第4号)

第3回 武石地域協議会 会議概要

1 審議会名	武石地域協議会
2 日時	令和7年6月12日(木) 午後7時から午後9時5分まで
3 会場	武石地域自治センター3階 大会議室
4 出席者	橋詰会長、大島委員、加藤委員、北原委員、小林委員、小山委員、近藤委員、佐藤委員、城下委員、中原(健)委員、樋沢委員 【欠席委員6名】
5 住みよい武石をつくる会 出席者	児玉会長、北澤副会長兼広報部会長、廣川副会長、依田ふれあい交流部会長、橋詰(明)自然・生活環境部会長(兼)、橋詰(真)産業・経済部会長、内山健康・福祉・体育部会長、小林子育て・教育文化部会長(兼)
6 市側出席者	酒井武石地域自治センター長、鈴木地域振興課長、竹花市民サービス課長、岩下産業観光課長、小松武石地域教育事務所長、下村地域総合調整幹、田中地域政策担当係長、佐藤地域担当主査、岩井地域政策担当主査
7 公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
8 傍聴者	0人 記者 0人
9 会議概要作成年月日	令和7年6月16日

協 議 事 項 等

1 開 会 (会長)

2 あいさつ (会長、センター長)

3 協議事項

(1) 第2回 地域協議会協議内容の確認について【事前資料 1】

・委員からの意見、質問なし

(2) 武石地域の住民自治組織の役割と今後の在り方について【事前資料 2】

(確認事項④ 住民自治組織が今後役割を担うことが可能な分野について)

(確認事項⑤ 地域協議会と地域振興課が住民自治組織へすべき支援について)

【住みよい武石をつくる会との懇談】

○住みよい武石をつくる会のこれまでの取組について【当日資料 3】(住みよい武石をつくる会説明)

(住みよい武石をつくる会) まず、「住みよい武石をつくる会の取組による成果をどのように評価しているか」について、地域協議会で3回にわたってグループ討議で客観的に検討していただいたことが当を得ている。1年ないし2年ごとに活動を評価して次につなげていかないといけないが、現状として十分にはできていない。8年間を振り返ってみて、もし住みよい武石をつくる会がなかったとしたら、地域内で忘れ去られてしまったであろうこともあると思うが、住みよい武石をつくる会の活動により地域が良くなった点は自らは言い得ない。住みよい武石をつくる会は、他地域の住民自治組織とは組織上異なっていて、活動に対し公的な性格を持たせるため、地域住民全員や事業所、様々な団体を構成員とし、それぞれから住みよい武石をつくる会の委員を送ってもらい、100名ほどの委員で6つの部会を構成して活動してきた。

次に、「取り組んできた結果、新たに発生した課題はあるか」について、特段ないと思う。一番の課題としては、1期2年で今年度は5期目になる中、会長と副会長が交代できず、新陳代謝が起きないため、組織は疲弊していつてしまうことである。

次に、「地域課題に対して自治会等とどのように調整を図っているか」について、8年間ほとんど調整は図っていない。唯一調整を図ったこととして、1・2年目に上武石の堀之内、片羽、市之瀬自治会と一緒にバイパス沿いの草刈りを実施した。これまで、自治会と調整しなければいけないようなバッティングは特になく、むしろ一緒に仕事をしたいと思うが、なかなかうまくいかない。他地域では自治会と住民自治組織が地元選出議員と一緒に市に要望する地域もあり、住民自治組織の役割とは一体何なのかなと見えてしまう。自治会の他にさらに住民自治組織をつくるということで、当初から屋上屋を重ねると反対論があったと聞いている。いまだに住民自治組織ができていない地域もあるが、自治会の性格を変えれば十分対応できるかもしれない。住みよい武石をつくる会では、自治会や自治連ではできなかったことがいくつか実行できたが、まだまだ課題は多く、当初掲げた理念と現実と乖離があるのが現状であると思う。

(確認事項④ 住民自治組織が今後役割を担うことが可能な分野について)

【事前資料 2】(事務局説明)

○少子高齢化対応

(住みよい武石をつくる会) 「花壇管理が人数不足で行うことが難しいので、住みよい武石をつくる会で行ってもらうのはどうか」との意見について、住みよい武石をつくる会の委員は全地域から出ているという前提の下、どのように考えるか。自治会内で放送をかけ、出られる方に出てもらえばいいのではないか。

(事務局) 今回、地域協議会委員から事前に出していただいた意見全てが住みよい武石をつくる会でやってもらわなければならないものではない。少子高齢化対応として大きな視点で捉えていただき、自治会として今まで行ってきたことを続けていくことが難しい状況について、住みよい武石をつくる会で担ってもらえることがあるかどうか。

(住みよい武石をつくる会) 住みよい武石をつくる会の委員の中で、2年間で活動に一切出ない委員のほうが多い状況で、丸投げされても動けない。

(住みよい武石をつくる会) 同感である。まずは自治会でやるべきもの。自治会の方々が協力してやる。だめだったらボランティアでやってもいいのでは。なんでもかんでも住みよい武石をつくる会があるからやってもらえばいいという考え方は違う。

また、「在宅介護」の問題が出ているが、介護を受ける高齢者への支援なのか、それとも介護をする家族への支援なのか。介護体操などの介護予防は高齢者を対象に行っているが、家族に向けた活動はないかもしれない。

(事務局) メインのターゲットは介護が必要な高齢者であると思うが、介護をする家族も併せた内容と理解いただければと思う。

(住みよい武石をつくる会) 「高齢化 介護・介護予防」について、住みよい武石をつくる会で担えるかどうかは何とも言えない。「実は支えることが困難な状況となってきている」という現状は知らなかったもので、何とかしないといけないが、自治会では恐らくできない。具体的な提案があれば、住みよい武石をつくる会で考えることはできる。住みよい武石をつくる会では、「人々が明るく支えあう、安全、安心な地域づくり」という理念を掲げており、新しい制度をつくる手助けをしていけるかもしれない。丸投げは困るが、相談には乗っていかなければならないと思う。この問題はもっとオープンにしてみんなで検討していく必要がある。

「自治会で行う花壇について」、自治会でできなくなればそれで終わり、やめればいい。住みよい武石をつくる会には自然・生活環境部会があるので、花壇を維持していきたいが、困っているという相談には乗ることができる。丸投げという発想はやめてもらいたい。

(委員)「自治会で行う花壇について」、七ヶ自治会では稲荷の信号の三角コーナーで年配の有志の方が整地するなど植栽の準備をしている姿を毎年見かける。七ヶ自治会は武石地域で子どもが一番多いと思うが、植栽体験には子どもの参加が二人だけだった。他の地域ではもっと大変な状況であると思う。住みよい武石をつくる会で行うのも困難だと思うが、保育園児に体験をさせるなど、小さいときから触れ合っていないと花壇を維持することはできないと思うので、そういう考えを取り入れてもいいと思う。

(事務局) 少子高齢化の対応は解決策がすぐに見出せるわけではない。住みよい武石をつくる会に丸投げするということではないが、高齢化や介護、花壇の維持管理などについて、問題をオープンにして関係者で検討する必要がある中で、それぞれの団体で担っていけることは協力して進めていければと思う。

○災害時対応

(聴かぬわの(社)) 自治会や消防団でつくってきた既存の組織を最大限利用できるようにしていただきたい。また、「武石地域防災会議」が設立されたので、例えば避難所の運営など、それぞれの組織の役割分担が見えてくる中で、住みよい武石をつくる会も役割を担いたい。

(事務局) 5月31日に「武石地域防災会議 第1回キックオフ」を開催した。今後、武石地域として防災減災への取組を重点的に進めていきたい。武石地区自治会連合会、武石地域協議会、住みよい武石をつくる会の三者が中心となって、今後、新たに「武石防災協議会」という組織を設置し、協議を重ね、災害に備えていきたい。関係する各団体の役割や住民個人個人がどう関わるか整理をし、住民が主体的に協力していただけるよう発信していきたい。

(委員) 武石地域では自治会長が1年交代のため、防災に対する知識を持っている方が地区にいなくなってしまうことが問題だという意見があった。現場では知識がないと何もできないと思うので、武石地域防災会議を含め、住みよい武石をつくる会や自治会の協議委員と一緒に学ぶ機会をつくってもらいたい。令和元年東日本台風災害では、消防団として見回りや土のう作りに追われ、自治会としての活動ができなかった。自治会長以外の方に防災の責任者をやっていただくなど、武石地域防災会議の中で決めていく必要があると思う。

(事務局) 上田市では、各自治会に自主防災組織をつくっていただいております。自治会長がリーダーという位置づけになるが、1年で自治会長が交代する状況であり、人材育成が課題とされている。

(委員) それぞれの自治会で、1年で自治会長が交代することはやむを得ないと思う。逆に、自治会長経験者が増えていくことは、防災の知識を持っている人が増えていくことになるので、いいことだと思う。

(聴かぬわの(社)) 確認事項で「自治会で要援護者の把握と避難方法や協力者の情報が共有されているか」、「災害発生時の独居の方の身元引受人の連絡先を知っているか」とあるが、既存の住民支え合いマップを含めて、武石地域防災会議で検討していく必要があると思う。

(事務局) 要援護者については、個人情報保護の観点から災害時の情報提供に課題がある。武石地域防災会議に上田市社会福祉協議会も一緒に入っていただきながら、検討していきたい。また、それぞれの団体の役割も整理していきたい。

○行事・イベント・交流

(委員) 以前、天神様をやっていたが、子どもがいなくなってしまったので、できなくなった。40代の人たちが当時の炊き込みご飯のおにぎりの味が忘れられないと言っていて、改めてやってよかったと感じた。少子高齢化により、毎年運営していく力がなくなってしまった。また、昨年、花市(夏祭り)に久しぶりに参加したが、多くの方が参加し、とても楽しく、花市には力を注いでもいいと感じた。宿泊できる場所がだんだん少なくなっている。

(住みよい武石をつくる会) セツ自治会の下鳥居の道祖神について、武石に戻ってから7年間開催できていないという話を聞き、子どもの頃に参加したときに楽しかった思い出が忘れられず、復活させたいと思い、自治会長などに相談した。子どもが少ないという問題があったが、他の地区の子どもの参加を全戸に頼んで、何とか開催することができた。開催後、引継ぎがなかったので、続かなかったが、やり方次第でどうにかなるし、自治レベル、地元レベル、さらに熱意を持ってやるかどうかだと思ふ。ふれあい交流部会では意見も出せるし、武石・未来・つながるプロジェクトや武石風土つなぎ隊の活動への支援など取り組んでいきたい。

(事務局) 住みよい武石をつくる会でも各種イベントや交流事業を実施していただいている。

(住みよい武石をつくる会) ふれあい交流部会には自治会の方もいるが、自治会で行っている祭りなどに対する意見はあまりない。地元の祭りは応援したい。宣伝費、宣伝方法などの負担があり、昔あった「わがまち魅力アップ応援事業」のような支援を住みよい武石をつくる会や市と検討していきたい。

(住みよい武石をつくる会) 産業・経済部会で行っているジャガイモやトウモロコシの栽培について、特にジャガイモは小さな子どもたちに農業体験をしてもらうために実施しているが、事務局が参加者をかき集めてもなかなか集まらない。子どもたちが土日にクラブ活動で忙しく、親の送迎も難しい。以前、学童保育に声をかけたが、移動手段を確保してほしいと言われ、住みよい武石をつくる会としてバスを借りることはできなかった。児童館で子どもたちが遊んでいる以上、そういう子供たちに参加してもらう道筋をつくる必要があると思ふ。夏祭りでは、じゃがバターと焼きとうもろこしを提供し喜んで買ってもらえるが、活動に来ているのはだいたい同じ委員である。

(住みよい武石をつくる会) 意見等の中で、「住民自治組織としては、今行っている事業をさらに進めていくことだと思ふ」という前向きな評価をいただいてありがたい。下本入自治会では道祖神など祭りがほとんどない。「ふるさとかるた」を読んで、他地区には色々な行事があつて驚いた。子育て・教育文化部会で、親子でふるさとかるたに出てくる場所を巡る企画をしてもらつた。お父さんお母さんと子どもに参加してもらいたかつたが、土日は習い事などで都合があつかないという子どもが多かつた。2巡目は実施できずにおり残念だ。ささやかでも祭りをしてきたことで、記憶に残り、故郷に帰つてきて自治会活動をする中で心の結びつきが復活すると考えるが、無理をしてやる時代ではない。

また、子育て・教育文化部会では、保育園児のお父さんが御柱の先箱の所作を子どもに教える取組を工夫してやってもらつた。行列の先箱とは何か、できれば保育園児にも理解できるお話などがあればいいと感じたが、子どもたちが成長して将来、自分の子どもに教える姿が楽しみである。また、ふれあい交流部会と子育て・教育文化部会では、以前、遠足で行つていた、熊沢峠を越えて霊泉寺温泉まで行くイベントを実施してもらつた。武石側のコースは楽しかつた。

(住みよい武石をつくる会) 子育て・教育文化部会では、今年も1つか2つイベントを開催したいということで動き始めている。大事にしたいこととして、例えば、介護の資源でも人が一番重要。子育て・教育文化部会では、子どもを理解する資源になりたいと考へ、活動していきたい。ふるさとかるたを見ると、地域の歴史や文化など、すばらしいものがあり、人もモノも子どもを育てる資源である。自分たちがやらなければそのままなくなつていってしまうので、踏ん張つて自らが資源になつて武石地域の子どもを育てていくという視点で色々な取組を行つていきたい。ふるさとかるたでは、まだまだ行きたい所がたくさんある。色々な人に触れて体験するような活動を今後していきたい。

また、先ほどの花壇の管理について、花壇ができなくなってしまった原因は、育成会がなくなつてしまったことである。子どもが地域に集まるような組織がなくなつてしまつていることが一番問題である。子どもたちを理解するような大人、要するに子どもが育つ資源を大事に活動していきたい。

(会 長) 藪合自治会では、子ども相撲、道祖神、しめ縄作り体験がある。自分の子どもが小学生のときは20人いたが、今は6人しかいない。自治会を越えてやるという話もあつたが、自治会長も引いてしまうため、自治会を越えて仕切ることができる組織があればいいと思ふ。

(事務局) 地域にとって行事・イベント・交流はなくてはならないものである。子ども向けイベントでは、子どもが忙しくて集まらないことや費用面などの課題があるが、地域のすばらしい歴史や文化、伝統行事をつなげていくため、それぞれの分野に共通して資源は人であり、これからの将来を担う子どもたちを理解するための活動、取組を行っていくことが大事であるという話をいただいた。住みよい武石をつくる会を中心に各団体が協力しながら今後も取組を続けていかれればいいと思う。

○その他（空き家・空き地・荒廃地など）

(住みよい武石をつくる会) 「空き家、空き地・荒廃地」について、特に空き家に関して、令和5・6年度に真田地域の勉強会に参加した。住みよい武石をつくる会で取り組む考えは今のところないが、他地域の活動を参考にできそうなことを探していきたい。

また、過疎と言われている地域などを見て回っているが、近隣の地域では耕作放棄地が多いと感じる。一方で、武石地域の主要な道路沿いはとてもよく耕作や管理がされている。周りの田畑に迷惑をかけないように、維持管理していくことの重要性を引き続き住民には持ち続けていただきたい。住みよい武石をつくる会で直接草刈りをすることはできないが、維持管理につながることを探していきたい。

(住みよい武石をつくる会) 大布施の公民館の前あたりに大きな桜があるが、恐らく住民の方が周辺の草刈りをしていて、きれいになっている。気がついたら道から50cmでも1mでもいいので自分で刈る気持ちを持てば地域はもっときれいになる。そのような気持ちが広がっていくといい。

(事務局) 住みよい武石をつくる会では、空き家対策として今後やれることを模索していただきながら、景観を守っていく意識づくりをしていくための発信などにより、意識を広げていくことにつながればいいと思う。

(確認事項⑤ 地域協議会と地域振興課が住民自治組織へすべき支援について)

【事前資料 2】(事務局説明)

(住みよい武石をつくる会) 他地域の住民自治組織と比べ、住みよい武石をつくる会では行政にお願いをしたことはあまりない。また、既存の自治会とは一線を画して活動してきた。意見等にあるとおりの「やりたいことが多すぎる」が、しぼりこむのは大変。PDCA等を行うための会議の時間がなかなか取れないが、個々の委員が忙しい中、手当が出ていない現状では仕方ないと感じている。委員の皆さんにはこれまでの8年間、本当によく活動していただき感謝している。今年度は部会再編など組織の見直しを検討していく。

話は逸れるが、自然・生活環境部会では、武石八景(十景)案内板を設置してもらった。知り合いから頼まれて、武石八景に加え、神社やお寺、巢栗溪谷、武石公園など1日かけて案内したが、とても好評で、また家族を連れて来たいと言ってもらえた。小団体を案内できる場所が増えてきたので、地味な活動であるが、過度な成果を望まず、今後もじっくり定着させていきたい。

(住みよい武石をつくる会) 「民生委員をする方がいない。支援をお願いしたい」という意見について、民生委員は自治会ごとにいるものであるが、住みよい武石をつくる会へすべき支援ではないと思う。

(委員) 団塊の世代が後期高齢者である75歳以上になる「2025年問題」があるが、団塊の世代が90歳以上になる「2040年問題」の方がもっと課題である。現状でも介護職員が少なく、近隣施設では外国人の採用を増やさざるを得ない。外国人が田舎で働くため、住居などの支援が必要で、事業者のみの課題ではなく、地域で支えることが重要である。

住みよい武石をつくる会では、2年間全く活動してない方もいるという話があったが、委員を減らし、実際に活動できる人を集めるべきである。

行政と一線を画す理由も分からないが、住みよい武石をつくる会、武石地域協議会、行政はそれぞれの立場で協力してつながりを持ってやっていかなければ、人口が減っている武石地域を維持していくことは難しいと思う。

先日、住みよい武石をつくる会の総会に出席したが、出席者は60代以上の方が多く、「60・70代の考える住みよい武石」、「30・40代が考える住みよい武石」、「子どもが考える住みよい武石」はそれぞれ異なっていて、住みよい武石とはどの年代をターゲットにしているかと考えさせられた。

花市（夏祭り）は昔と比べてどんどん形が変わっているが、思い出として集まってくる若い人がいる。住みよい武石をつくる会は武石のために皆が考えている組織なので、つながりを持って協力しながら進めていければよいと思う。

（事務局）本日は住みよい武石をつくる会の大変な実情を聞くことができたと思う。課題全てを住みよい武石をつくる会で担っていってもらおうという話ではない。地域協議会の委員の皆さんも住みよい武石をつくる会の部会員として活動していただいております、双方の役割がある中で、武石地域をよくしていこうという目的は同じであり、課題に向き合って取組を進めていくために協力していくことが大切であると思う。武石地域は色々な団体が近い存在にあり、今後も力を合わせて取り組んでいくために、市としても協力していくので、引き続きよろしくお願ひしたい。これまで協議してきた内容を踏まえ、次回の武石地域協議会では、事務局から諮問に対する意見書（素案）を示せればと考えている。

4 その他

【意見等】

（委員）上沖では、ボランティアで花壇にフジバカマを植えており、アサギマダラが20～30匹飛んでくるようになった。防草シートを敷くことで草取り等の管理がそこまで大変ではなくなるので、皆さんも挑戦してみてください。

通学路にある荒廃地について、市でも対応してもらっているようだが、草がどんどん茂ってきており、子どもたちが心配であると日々感じている。

（事務局）通学路にある荒廃地については、交通安全協会などで対応していただいている。子どもたちのために色々な団体が協力して取り組んでいるが、市としても対応していきたい。

（1）第4回 地域協議会の日程について

日時：令和7年7月10日（木） 午後7時～

場所：武石地域総合センター3階 大会議室

○「第9回仮装大賞」【チラシ】（事務局説明）

（事務局）武石風土つなぎ隊が主催で市も協力しているが、出演者を絶賛募集中であるため、本日出席している皆さんや身近な方で興味があれば、ぜひ申込みをお願いしたい。武石地域自治センターでも毎年出演しており、当日は無料で観覧できることから、皆さんにもぜひ生で見ていただければと思うので、よろしくお願ひしたい。

5 閉会（会長）